

輸送路における放射線量率の測定

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台]※1	(参考) 当該地点の空間線量率 [μSv/h] ※2	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μSv/h] ※3	線量率の増加が観測された時間(累積) [分] ※3	追加被ばく線量(累積) [μSv]
①知命寺	1,573	99	0.16	0.25	45	0.03
②高瀬	7,636	389	0.18	0.18	114	0.06
③国道288	3,709	41	0.21	0.03	7.0	0.003
④常磐富岡IC	41,182	188	0.63	0.06	31	0.02
⑤広野IC	1,211	114	0.15	0.06	27	0.01
⑥南相馬IC	3,742	87	0.13	0.04	16	0.006
⑦相馬IC	4,877	260	0.14	0.13	52	0.03
⑧浪江IC※4	7,523	85	0.45	0.49	37	0.06

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 平成30年3月時点。

※3 測定は20秒単位。

※4 平成29年9月20日新設、測定開始。

輸送路における放射線量率の測定結果(平成29年4月～平成30年3月)

<評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

引き続きモニタリングを実施し、輸送車両通過時の追加被ばく線量を評価していく。